TRIBUNE SHIKOKU
編集部では、読者の皆さんからの情報提供や投稿を募集しています。また当社HP上にて、NET-NEWS（￥8,400）を設け、最新情報を発信しています。
情報提供や購読希望の方はご連絡ください。
☎ (088)664-5004
FAX(088)664-4809
E-mail-tribune@mail.planning21.ne.jp

トリビューン tribune しこく

《毎月5・15・25日発行》
発行所 ㈱トリビューンしこく
〒770-0874 徳島市南沖洲2丁目4-10
電話(088)664-5219 FAX(088)664-4809
年間購読料 7,500円
阿波銀行県庁支店/口座番号・普通0318279
徳島銀行県庁支店/口座番号・普通5283742
郵便振替口座/01650-6-22468
【掲載記事、写真等の無断転用を禁止します】

於安パーク 四季の花が咲く 憩いの自然公園
わんぱくの丘 ローラー滑り台などの遊具
なかよし広場 約2,000㎡の芝生の広場・野外ステージ
四季の花畑 50種類の草花や樹木・花畑・休憩舎
桜の丘 1,000本の桜を楽しめる花見デッキ
於安御前 妊婦さんの安産祈願
お問い合わせ TEL(0883)62-3111 つるぎ町役場交流促進課
とりぴゅーん・しこく

昭和31年2月27日 第三種郵便物認可　第1648号 令和8年11月15日(日曜日)

吹くか「阿波女旋風」 来春県議選 徳島

六選挙区で十二人の女性候補が出馬か 女性議員は現在三十六人中三人

来春県議選で、阿波女旋風が吹きそうだ。現時点では、六選挙区で現職・新人あわせて十二人の名前が浮上している。知事選は高井・三好市長が出馬を見送り、徳島県初の女性知事は幻に終わったが、県議選では阿波女が春の嵐を引き起こしそうだ。徳島県議会の女性議員は現在三人。阿波女旋風で女性県議はどれだけ増えるのか。（敬称略）

徳島選挙区（定数十）


大西実希氏　鎌田恵理氏

参政党が女性候補擁立、衆院選の躍進再現できるか

一一月衆院選で躍進した参政党が初登場だ。出馬予定者は鎌田恵理（四五）。同党の徳島県政改革委員。徳島文理大卒。臨時教員を経て、介護・福祉分野へ。

現在はケアマネージャーだ。二月衆院選での参政党の比例得票は徳島市・佐那河内村で約一万票。女性候補を積極的に擁立し党勢拡大を図る同党。二月衆院選の参政党プームを再現できたら、当選圏内だ。

共産党は徳島市議の古田美知代（七八）を県議選に引っ張り出す。県議四期を経て、徳島市議に転身。現在二期目。共産党の人材不足を象徴するベテラン政治家の出戻り出馬だ。

前回二人を擁立、共倒れ落選の悲哀を味わった共産党。背景には党員の高齢化など党勢の減退がある。現実対応の古田への一本化戦略で、一議席を奪還できるか。

徳島市議の大西実希（三五）も県議転身を目指す。市議一期目。予育て支援の事業所を運営する。板野選挙区からの出馬説も流れたが、徳島選挙区からの出馬を決断したようだ。

鎌田、古田、大西と現職の東条恭子（七二）が全員出馬し当選すれば、徳島選挙区の女性県議率は一気に四十%に跳ね上がる。県都徳島市で阿波女旋風が吹くか。

小松島・勝浦選挙区（定数二）


近藤純子氏

市議選トップ当選の近藤市議が出馬へ

小松島市議の近藤純子（五七）が出馬を目指す。現在市議二期目。鳴門教育大卒。中学校教員を二十五年間務めた。過去の市議選は二回ともトップ当選。自民に公認申請する予定だ。

阿南選挙区（定数四）


水谷あゆみ氏

水谷市議が県議空白の羽ノ浦で出馬へ

阿（四一）南市議の水谷あゆみが県議転身を目指す。市議二期目。選挙カーを使わない自転車選挙で知られる。岩佐阿南市政には野党的立場。看護師や保健師の資格を持つ。

地元は見能林町。羽ノ浦町に転居。同町の県議空白状態の解消を目指す。現職の達田良子（七五）と共に阿波女旋風を吹かすか。七期、七十九歳の嘉見県議の去就も焦点だ。

近藤出馬の影響を受けるのは小松島が地元の井村県議。勝浦が地元の岡本県議、支持層が異なる長池県議は影響少なしか。近藤VS井村の元市議対決が同選挙区の焦点になりそうだ。

板野選挙区（定数四）


南恵理子氏　中野真由美氏

国民民主が女性候補擁立か、出馬を模索する北島の中野町議

国民民主が女性候補の擁立を目指す。同党徳島県連幹事（政策委員）の南恵理子（五二）。地元は藍住町。介護支援専門員で、介護関連の合同会社merdiesの代表。

北島町議の中野真由美（五五）も出馬を模索する。中野は令和三年衆院選徳島二区に立憲民主公認で出馬（落選）。知名度があり、出馬待望論が根強い。支持層が被る南と棲み分けできるか。

同選挙区には元職の北島一人も出馬を目指す。現職の眞貝、立川、扶川の三人に、二人の女性新人、元職の北島が参戦すれば、六人が四議席を争う激戦区になりそうだ。

阿波選挙区（定数二）


大塚小百合氏

引退する大塚県議の地盤を姪の元衆院議員が引き継ぐか

引退する大塚県議の後継として、姪で元衆院議員の大塚小百合（四六）が出馬予定だ。相模原市の社会福祉法人蓬莱会常務理事を歴任。故郷の阿波市で県議転身を目指す。

令和六年衆院選神奈川二区に立憲民主公認で出馬。自民党の甘利明を破り、話題を呼んだ。今年の衆院選は中道改革連合公認で出馬したが、自民党候補に敗れた。

同選挙区では現職の寺井県議も勇退。山口衆院議員元秘書の鈴田和基が地盤を引き継ぐ。笠井一司阿波市議も出馬を模索する。大塚が新人対決で阿波女パワーを見せつけるか。

吉野川選挙区（定数二）


吉野美苑氏

書道家の吉野が出馬へ、実家は岡田県議の隣

書道家の吉野美苑（本名・美保、六三）が出馬表明。辻立ちを行っている。地元は鴨島。実家は現職の岡田県議のすぐ隣。「隣人県議選か」と話題を呼んでいる。

同選挙区は現職の川真田、岡田両県議の他、国民民主も元吉野川市議の川村洋樹の擁立を目指す。太鼓とコラボしたパフォーマンスで知られる吉野美苑が阿波女の存在感を発揮するか。

あなたの情報 大募集!!
秘密厳守
守秘義務の徹底で情報提供者の方を必ずお守りいたします。
本紙記者が取材し、公益に反する問題点を徹底追及します。情報提供は本紙HPの情報提供フォームの他、メール、FAXでもお受けします。メールの場合は「返信先アドレス」をご記入ください。G-mailでも構いません。
「身元がバレるのでは」と懸念されるかも知れませんが、情報提供者のプライバシーは厳守しますので、ご安心ください。
社会に警鐘を鳴らす内部告発や情報提供をどしどしお寄せください。
〒770-0874
徳島市南沖洲2丁目4-10
㈱トリビューンしこく編集部
FAX:088-664-4809
TEL:088-664-5219
Eメール:tribune@mail.planning21.ne.jp
本紙ホームページ内の［情報提供］からも投稿できます。

地域商社を追い詰めろ!



新規事業で会長報酬の財源捻出?!

今年八月二十七日、地域商社の臨時総会で、令和八年度の事業計画変更が認められた。県産品の販路拡大やプロモーションで新規事業やイベントが打ち出された。

内容は次の通りだ。▽グランドニッコー東京・台場での徳島フェア▽あべのハルカスでのニッポン博覧会「徳島編」▽阪急梅田店での「ええもんいっぱい!あるでよ徳島」▽交流プラザの陳列方法改善▽アワスクエアの多言語対応。

四月二十日に会長に就任した南波岳大氏が打ち出した「南波戦略」だ。県産品の販促という公益目的の実現を目指すものだが、この「南波戦略」にはもう一つの目的があった。

年間一、五〇〇万円という会長報酬の財源確保を目指すパーソナル目的だ。南波氏はアミコビル管理の徳島都市開発元社長。後藤田知事にスカウトされて地域商社の会長に就任した。

提示された報酬は年額一、五〇〇万円。会長就任が年度途中だったため、財源は当初予算に組み込まれていなかった。会長の報酬財源をどう捻出するか。その答えが「南波戦略」だった。

八月補正予算で四千万円増額

「南」波戦略」で新規事業を追加した地域商社。年間の収支予算も拡大した。当初予算では年間約四億円だったが、八月補正予算では年間約四億四千万円。約四千万円増えた。

約四千万円の収入財源は展示販売手数料収入。地域商社は会員企業の商品を交流プラザや各種物産展で委託販売する。手数料は食品が二三%、工芸品が三〇%。千円の食品を売れば二三〇円が収入になる。

新規事業を打ち出し、委託販売手数料を約四千万円余分に稼ぎ、会長報酬の財源にしようと目論む地域商社。約四千万円の手数料を稼ぐには、食品なら約一億七、四〇〇万円の売上が必要だ。

報酬財源の確保のために、約四千万円の手数料収入のアップを目指す南波会長。来年三月末までに約一億七、四〇〇万円の委託販売売上ノルマが突きつけられている。

地域商社の昨年度の商品取扱額の実績は約五億円。その三五%の約一億七、四〇〇万円を売り上げることができるか。「販促のプロ」と言われる南波会長の手腕が問われている。

もし来年三月末までに約一億七、四〇〇万円の売上ノルマが達成できず、報酬財源が確保できなかったら、「報酬減額」という事態に追い込まれる可能性も指摘できそうだ。

会長の売上ノルマは一億七、四〇〇万円

「約」一億七、四〇〇万円の壁」が立ち塞がる南波会長。「自分の報酬は自分で稼げ」ということだが、公益法人である公益社団法人には個人の稼ぎに制限がある。いくらでも報酬がもらえるわけではない。

公益法人に関する法律では、公益社団法人は役員や社員への利益（剰余金）の分配が禁止されている非営利法人。役員や社員への報酬や給与の支給は可能だが、過大な金額はダメだ。

会長等の役員報酬は社員総会で決められるが、全国公益法人協会の調査によると、公益・一般法人の月額役員報酬は「四十万円未満」が五三・六%。八五万円以上はレアケースだ。

年額報酬一、五〇〇万円の南波会長は月額一二五万円。知事並み（月額一三〇万円）の高額報酬だ。非営利の公益社団法人の会長報酬としては、あまりにも過大だ。

南波会長は経営する「GENKIクリエイション合同会社」が徳島都市開発と顧問契約を結び、月額約三〇万円の顧問料をもらっている。妻は地域商社を担当する県商務戦略課の臨時職員だ。

非営利法人という地域商社の立ち位置を自覚するなら、月額報酬を三分の一に減額し、浮いた金を県産品の販促など公益目的に活用すべきだ。それが公益法人トップの矜持というものだ。

仕事をするのは県から派遣された県職員

地域商社は県の公共事業の委託業者の顔も持つ。令和八年度は経済や農林部局あわせて十二事業を随意契約で受託している。委託費総額は約一億六、六五五万円だ。

内容は交流プラザやアワスクエアの管理運営、県産品の国内、国外の販路開拓やプロモーション、農林水産物の海外輸出推進業務、海外進出ワンストップ相談支援などだ。

県の公共事業の肩代わり団体だが、実際に仕事をするのは、県から派遣された七人の県職員と三人の民間専門人材。事務局は県庁内。事業資金や人材を県に依存する公益法人だ。

後藤田知事の外郭団体改革からすると、真っ先に廃止・解体の烙印が押される団体だ。県職員でできる仕事は委託などせず県職員がやり、どうしても無理な業務は公募で民間に委託すればいい。

県からもらう委託費の中には人件費など各種経費が含まれている。県からもらう委託費は収入総額の約六〇%。南波会長の報酬も他の職員同様、県からの委託費で賄うべきだ。

商売や金儲けができない「商社」、非営利の公益法人

「地」域商社」というネーミングも実態とミスマッチだ。名前は商社だが、実態は商売や金儲けができない非営利法人。会費や県の委託費を財源に収支トントンの公益事業を行うべき団体だ。

後藤田知事は「政治の究極はマーケティング」と言うが、その言葉同様、地域商社は名と実が矛盾している。手数料収入で儲けたいなら、一般社団法人や株式会社へ移行すべきだ。

年間約一億八、六六五万円の公費が委託費として流れ込み、情報公開制度がないため、その使途が不透明な地域商社。県民にとっては、何をやっているのかわからない「闇の中の公益法人」だ。

地域商社

正式名称は、公益社団法人産業国際化支援機構。会長はアミコビル管理の徳島都市開発元社長の南波岳大氏。県から七人の職員が派遣され、実務を担う。県庁内に事務所がある。

年間予算は約四億四千万円。収入の約六十%は県の委託費。県の委託業者として県産品の販路拡大、国内外のプロモーション活動、交流プラザやアワスクエアの管理運営を行う。

後藤田知事は「政治の究極はマーケティング」と言うが、その言葉同様、地域商社は名と実が矛盾している。手数料収入で儲けたいなら、一般社団法人や株式会社へ移行すべきだ。

年間約一億八、六六五万円の公費が委託費として流れ込み、情報公開制度がないため、その使途が不透明な地域商社。県民にとっては、何をやっているのかわからない「闇の中の公益法人」だ。

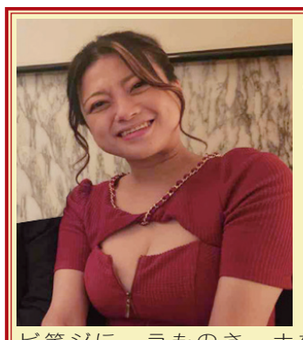
地域商社

正式名称は、公益社団法人産業国際化支援機構。会長はアミコビル管理の徳島都市開発元社長の南波岳大氏。県から七人の職員が派遣され、実務を担う。県庁内に事務所がある。

年間予算は約四億四千万円。収入の約六十%は県の委託費。県の委託業者として県産品の販路拡大、国内外のプロモーション活動、交流プラザやアワスクエアの管理運営を行う。

会長の月給は知事並みの一二五万円、実務を担うのは七人の県職員、投入される県費は年間約二億六、六五五万円…。国内外で食品や工芸品など県産品のプロモーションを行う県地域商社。名前は商社だが、実態は商売や金儲けができない非営利団体。「闇の中の公益法人」から浮かび上がる矛盾とミスマッチ…。

見〜つけた!! 街角美人 №171



神戸中山手通りの有名ラウンジで出会った街角美人。キャストとして登場。巨乳がパワフルな豊満スタイル。賑やかに神戸ナイトを楽しませてくれた。

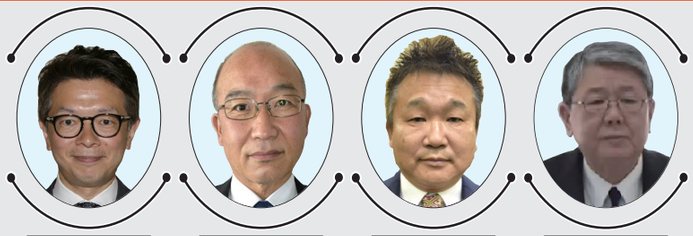
話を聞くと、飾り気のない気さくな浪速娘。生まれは東大阪の瓢箪山。ビールならいくらでも飲めるという酒豪。ビールグラスをぐいぐい飲み干す。

飲み比べに挑戦したら、早々にギブアップ。「いつでもリベンジ、受け付けますよ」と満面の笑み。愛嬌あふれる「瓢箪山のビール娘」に完敗だ。

ザ・チェック 市議か副市長か 誰が火中の栗を拾うのか? 市長逮捕で揺れる阿波市

「クリーン三木」の孫、高橋永氏待望論も

市長が辞職したら、五十日以内に市長選



市議二人が出馬の動き、本命は安丸副市長か

町田市長が詐欺容疑で逮捕された阿波市。市長が辞職したら、五十日以内に市長選だ。市役所には激震が走り、市議らは水面下で次期市長選に動く。誰が阿波市のピンチを救えるのか。

最初に動いたのが、後藤修市議。三期目の五十九歳。「変革」「ごみ問題の混乱を正す」との幟を立てている。ごみの県外搬出問題を追及するなど町田市政の野党だ。

与党市議も出馬の動きを見せている。樫原浩二市議だ。二期目の五十七歳。後藤、樫原両市議に対し、市議間からは安丸副市長の擁立を目指す動きが起こっている。

「市長は幅広い行政手腕が求められる。複数市議らが副市長に出馬を要望しています。副市長は固辞していますが、今後各種団体も要望に動けば、最後は受諾してくれるのでは」（市議）。

安丸副市長は企画総務部長などを歴任した市OB。商工会に再就職。事務局長を務めた。令和五年四月の市長選で初当選した町田市長が副市長に抜擢した。現在市長職務代理者だ。

町田市長は任期途中で辞職した藤井市長の路線を継承。農業のまちづくりや高速道のスマートインターチェンジなど社会基盤整備を進めた。ふるさと納税を活用したまちづくりにも着手した。

ごみ行政では、板野町の組合離脱で混乱した広域処理を上板町と再構築。新ごみ処理施設整備事業を推進した。不正が告発された県外搬出問題では、第三者委員会を立ち上げ、調査に着手したばかりだった。

市政刷新を求める市民からは、町田市政と無縁のフレッシュ人材による市政運営を期待する声もある。

囁かれるのは高橋永氏。土成が地元の三木武夫元首相の孫。今年一月の衆院選に中道改革連合から徳島一区に出馬したが、落選。徳島市内で街頭演説を行うなど、政治活動継続中だ。

「クリーン三木」のイメージにあやかり、「市政刷新で阿波市に光を取り戻そう。地元に祖父の恩返しをする絶好のチャンスだ。高橋氏にまかそう」との声が市民から出始めている。

信頼回復や新ごみ施設、待ったなしの難題

市議が副市長か、フレッシュ人材か。情勢混沌の次期市長選だが、誰がなろうと、新市長には多くの難題が待ち構えている。火中の栗を拾う覚悟が問われている。

緊急課題は市民の信頼回復だ。不祥事の実態解明と再発防止策の打ち出しだ。新ごみ処理施設の整備事業も待ったなしだ。市民生活に直結するごみ処理事業をどう軌道に乗せるか。

阿波市は上板町と組んでごみを燃やさないトンネルコンポスト方式を処理方法に採用。建設用地も確保し、ごみ処理の委託業者を決める公募を行う予定だった。

トンネルコンポスト方式を推進するのか、ゼロベースで計画を見直すのか。「ごみは魔物」と言われるが、「ごみを制する者はまちを制す」とも言われる。新市長を決める市長選の争点になりそうだ。

高井三好市長が出馬を見送った来春知事選。自民党本部が十一月七日・八日に行った世論調査では、元経産官僚の新居氏が四十八・五%、後藤田知事は二十九%、未定が二十二・五%。サンプル数は三、一六八件。

「もう応援しない」と支持者の離反が相次ぐ後藤田知事。十一月一日の政治資金パーティーに、妻で女優の水野真紀さんの姿はなし。「妻にも見放されたのか。支援者がどんどん離れて来春の知事選は大丈夫なのか」と再選を危ぶむ声も。

購読料：年間 8,400円 トリビューン・電子版 tribune.web
購読申し込み頂くと、スマートフォンやタブレット、PCで最新号の閲覧ができます。ネットニュース（速報）もトリビューン電子版で。
お申し込みはHP www.planning21.ne.jp/tribune/ の申し込みフォームから

くねくね探訪団

合気道敷島塾

技を磨き、心を育む 徳島県立武道館


▲演武大会で磨き抜かれた技を披露する工藤泰助師範。

相手を倒すことではなく、相手と調和し自らを高める…。日本の伝統武道である合気道には、技の習得を超えた人間形成の教えが息づいている。

その精神を徳島の地で長年にわたり伝えてきたのが、合気道敷島塾の工藤泰助師範だ。

合気道は、開祖・植芝盛平翁が日本古来の武術を基礎に、独自の精神哲学を取り入れて創始した現代武道。勝敗や優劣を競う競技とは異なり、相手の力に逆らわず、その動きを受け止めながら技を展開する。心と身体の調和、そして礼節を重んじることが大きな特徴だ。

敷島塾は徳島県内において合気会直轄道場として活動。徳島市の中央道場をはじめ、鳴門、大麻、吉野川、阿南、石井、上板など県内各地に稽古の場を設け、幅広い世代への普及に取り組んでいる。

工藤師範は長年にわたり徳島の合気道界を支えてきた指導者。全日本合気道演武大会にも師範として参加し、令和四年度には武道功労者として顕彰された。過去は徳島市議を務めるなど政治活動でも知られた。現在は小松島市在住だ。

合気道の稽古で大切にされるのは技の巧拙だけではない。道場での礼儀、仲間への思いやり、日々の鍛錬を積み重ねる姿勢も重要な修練の一部となる。子どもから大人まで、それぞれの体力や経験に応じて取り組めることも魅力だ。八十歳を目前にして合気道を始めた人もいる。

力で相手を制するのではなく、互いを尊重し、調和を求める。その教えは対立や分断が生まれやすい現代社会に必要とされている。合気道敷島塾の活動は、武道の技とともに、人としての在り方を次の世代へ伝える取り組みでもある。

合気道敷島塾は現在練習生募集中だ。連絡先は0885-32-2280（工藤泰助氏）。

徳島県庁で既婚男性幹部と独身女性幹部の熟年不倫が話題に。喫煙室で堂々と同伴スモーキング。かつては県庁エレベーター内で熱々ハグの目撃情報も。